

2023
5月

東京都 147号 NEWS

介護福祉士会



国境を越え 共生・協働する介護

TOPICS

1 P1: 国境を越え共生・協働する介護

2 P3: 訪問介護サービスに求められる
障害者の在宅生活支援 (研修報告)

3 P4: 会員の声①

4 P5: 会員の声②

5 P6: 会員の声③

6 P7: 分身ロボット 活用支援事業

7 P9: 地域ブロック学習会のご案内
編集後記

1 国境を越え共生・協働する介護

東京都介護福祉士会 理事 蔵本 孝治

昨

年度から東京都介護福祉士会の理事をつとめている蔵本孝治と申します。国際事業部の活動や「介護職種の技能実習指導員講習」を担当しています。

●これまでの自身の活動をふりかえって

もともと障害者の在宅介護や相談、団体運営の仕事をしていたのですが、転職活動をしていた時（2009年）に、インドネシア、フィリピンからの介護福祉士候補者の受け入れ（EPA）が始まっており、介護施設・病院をサポートする仕事に応募したのが、外国人介護職員にかかわるきっかけでした。

その後、外国人対象のヘルパースクールの非常勤講師をしていた時に、先輩講師から東京都介護福祉士会の研修を勧められて、入会しました（2011年）。入会後まもなく、国際協力委員会（現：国際事業部）が発足し、メンバーに加わって学習会やイベントなどの活動を続けてきました。

活動の中で、さまざまなネットワークにつながり、日本介護福祉士会の技能実習指導員講習プログラム・テキスト作成、ワールドケアカフェ（介護の国際化、異文化理解に関心を持つ人の交流の場）、NPOによるベトナム介護

留学生支援などの活動にも参画してきました。外国人介護職員を受け入れた現場の日本人職員への研修も必要との問題意識を持ち、日本人を対象とした研修プログラムづくりにも取り組みました（※）。

※研修プログラムはWEB上に公開されています（文部科学省・専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト、学校法人敬心学園受託）

<https://wakuwakumanabudiversity01ibunka.globa.com/>

●双方向の介護人材の国際移動

EPAが始まった当初は「利用者が嫌がる（外国人による介護を受けられない）」「国家試験に合格できるわけがない」と言われていましたが、ふたを開けてみれば、利用者とのトラブルは少なく、国家試験も初年度（2011年度）に36名が合格しました。

その後、養成校への留学、技能実習、特定技能と受け入れルートが拡大されてきました。定住外国人（日本人の配偶者や日系人など）の介護分野への就労も増加しています。

現在、約54,000人の外国人が社会

保険・社会福祉・介護事業に従事しています（「外国人雇用状況」2022年10月末）。

一方で、日本人介護福祉士が海外で活躍するケースもでてきています。国際事業部メンバーの土橋さんは、ベトナムの高齢者施設で介護業務をしながら、日本での就労を目指すベトナム人への教育を行っています。ベトナムに限らず、東アジア・東南アジアの国で介護人材の育成に携わる日本人介護福祉士がいます。JICAの青年海外協力隊においても介護福祉士の募集（東南アジア、南アジア、南米）が増えています。

このように、海外から来て日本の介護現場で働く外国人もいれば、海外に出て外国で介護関係の仕事をする日本人がいるという、介護人材の国際的な移動は双方向になっています。ここ数年コロナ禍で移動が制限されていましたが、今後も基本的な流れは変わらないと思われます。

●定住外国人の高齢化と介護

日本国内の定住外国人が高齢化し、介護サービスを利用するというケースも増えてきています。もともと日本語が得意でない人や、日本語を習得していても認知機能の衰えとともに母国語しか離せなくなる人もいて、日本人介護職員とのコミュニケーションの課題があります。利用者の母国の文化（食事、アクティビティ、コミュニケーションなど）を考慮した介護サービスを提

供する必要もあります。

実際に、定住外国人から「親の介護が必要になってきているが、言葉や文化の違いに対応してもらえるか不安で、介護サービスを利用するのをためらってしまう」という声を聞きます。そういった状況の中、定住外国人を主な対象としたデイサービスや介護施設もでてきています。

●様々な文化的背景を持つ人が共生・協働する介護現場に

これまで介護業界では「日本人介護職員が日本人利用者を介護する」ということを（無意識に）前提として考えられてきました。しかしここ数十年、介護現場での文化的多様性が広がり、将来的にさらに拡大すると思われまます。日本が介護福祉を学んできたヨーロッパ諸国では、すでに同じような状況が先行しています。

介護現場では「その人らしさ」を大事にしてきました。“文化”“習慣”“国籍”“母語”“宗教”などは「その人らしさ」の一部です。利用者、職員のそれぞれの文化的背景が尊重され、お互いに理解し、認めあう介護現場になるよう、活動していきたいと思えます。



訪問介護サービスに求められる 障害者の在宅生活支援（研修報告）

介護福祉士 小宮 浩伸

研

修に参加させていただき誠にありがとうございます。企画参画の皆様には熱く御礼申し上げます。

午前中は、本間里美氏の現状を踏まえた事例、後半は地域で暮らしを垣間見ました。

当事者小田政利氏のご意見は、とても参考になりました。午後は、小田氏の質疑応答も含み、プックル宮里裕子氏のお話、陽和病院の塚本寿美雄氏には介護保険制度当初からのお話と変遷、また、65歳からの介護保険利用者事例をわかりやすくご説明いただきました。そして、滝野川学園の永田一彦様には、今後の法人展開なども含めとても参考になりました。

そもそも参加動機が、ちらし副題にもあります『65歳以上の・・・』というところでした。就業している居住系サービスと通所サービスの今後の運営展開のポイントと可能性。そして、自分自身の65歳以上の可能性といったぼんやりとした思いでした。

65歳を超えた介護保険制度優先については、実務として分かっていたつもりでした。しかし、当事者目線で参画でき65歳超で生活や環境が変わるわけではない事、生活をサポートというよりは一緒に生活をする人たちが支えていく伴走であることがわかりました。

自分の就業先を顧みると、通所サービスにおいては集客のために色々な工夫が必要とされます。本当にニーズに応えられているのか疑問です。

個別性が求められるサービスであり、多角的なりハビリが計画に求められます。利用者から見た選ばれる事業者、事業所になる必要があります。ここなら、貴方なら自己実現が出来そう、という事でしょう。

40年近く前のことで恐縮ですが、わたくし自身はじめての就労は作業所の送迎スタッフでした。どのようなサービスが必要なのかが判断できない時でした。

今回感嘆した一つに、文字盤の利用があります。『経験と勘』で行う介護は過去のものと思っていた自分が恥ずかしく思いました。不器用な私にとっては到底たどり着けない領域で、神がかり的だと感じました。また、介護福祉士のサムライ（士）はここで生き抜いていたと感じた一瞬でもありました。

最後になりますが、研修参加の方で年金定期便なるものを日本年金機構から受け取っている方もいると思います。65歳支給を75歳まで遅らせると最大84%増と記載があります。訪問介護員の高齢化が現実化している中、ある企業では80歳定年、また、無期雇用等も導入しています。40歳未満の介護福祉士の皆さん！長く働き、長く生きることに意義がありそうです。



会員の声①

二瓶 裕二 様

皆

様は、介護福祉士として誰かに介護や福祉を伝える場面はあるでしょうか。

「介護福祉を伝える」研修会は、日本介護福祉士会旧リーダー研修講師養成フォローアップ研修を前身とした研修で、介護福祉士のキャリアラダーである「基本研修」「ファーストステップ研修」「認定介護福祉士養成研修」のカリキュラムを中心として、OJT、OFF-JTのあらゆる場面を想定して『介護福祉士』の持つ実践に根ざした専門知見をいかに伝えていくか、MT（マイクロティーチング）の講義・伝達演習を通じて、競い合い高め合うことを目的とした参加型の研修となっています。

私は、これまで様々な場面で多くの人達に介護福祉について私なりに伝えていたと思っていました。しかし、それは単に言っているだけだったのではと振り返ります。また、伝えたいことをうまく言語化できていないことに気がつきました。

そこで、改めて伝えることを学びたいと思い、この研修に参加しました。そして、研修を通じて介護福祉とは何かを相手に伝えることの思いや願い、工夫の技術や伝わった時の喜びを知り、実感することができました。

この「介護福祉を伝える研修」では、

全国の介護福祉士が集まり、真剣に向き合い、お互いに助言しあえる場であり、伝えることとはどういうことかを共有することができ伝える技術の質を高めることができます。

参加者の中には、初任者研修や実務者研修の講師を行っている方や地域住民に介護についての話をされている方もいます。また、職場でのOJTでこれから研修担当になるので講師などの経験が全くない方もいます。働く環境や立場は違いますが、一つ一つのテーマに対してどのように伝えることが良いのか話し合う研修会は、この研修の特徴の一つかと思います。そしてその場にはそれぞれの介護の専門性があるかと思います。

介護福祉士は、介護施設、在宅、病



院、障害者施設、学校など様々な場所で活躍しています。その役割は、今の社会全体の生活を支える土台となっていると言っても過言ではありません。しかし、専門性は世間に伝わっているのでしょうか。まだまだ「大変な仕事」としてしか伝わっていないかもしれません。

一人でも多くの介護福祉士が、自分の言葉で介護の専門性を伝えることができるスキルを磨く場。それが「介護福祉を伝える」研修会かと思います。

今回は2024年3月16日(土)・17日(日)の2日間で開催予定です。会場は神奈川県川崎市です。この期間に是非ともチャレンジしてみてください。



会員の声②

医療法人社団 巨樹の会

五反田リハビリテーション病院 介護福祉士主任 橋本 昭作 様

私

は回復期リハビリテーション病院（以下、回リハ病院）で働いている介護福祉士です。

回リハ病院における介護福祉士の業務の中には、患者の回復をサポートすることがあります。そのためには患者の状態を的確に判断する能力が重要となります。さらに、多職種との連携が必要であるため、医療知識や医療用語に精通することが求められます。そして、患者の状態に合わせた個別的なケアを提供しています。個別的なケアとは、患者の身体的、精神的な状態、生活習慣や社会的な役割などを考慮し、その人に最適なケアを提供することです。患者の治療に重点を置きつつ、生活面での個別的なサポートを実施すること

で、患者の心身状態の改善や、患者との信頼関係の構築につながります。

当院で働く介護福祉士は、患者の回復に向けて支援・援助することが求められますが、患者が回復し退院する時は、スタッフにとって大きな達成感とやりがいをもたらします。当院の患者は病気やケガの治療後に入院されており、何らかの障害を有しています。介護福祉士を含む多職種チームが支援、援助することで、少しずつ回復していく様子を見ることができます。例えば、リハビリを繰り返し行うことで、患者の筋力や運動能力が向上改善することがあります。そうした患者の変化を見ることが出来るのは、スタッフにとって大きな楽しみになっています。

医療スタッフと協力する場面も多く、医師や看護師、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカー、管理栄養士など多職種との連携能力を身につけることができます。毎日行っているカンファレンスでは、患者の情報共有の他に、勉強会も実施しております。そして、各自の能力向上のため定期的に内部

研修、外部研修に参加することができ、自身のスキルアップにつながっております。

今後も回りハ病院で仕事をしていくということを誇りに思い、患者を支え、介護福祉士である私にとって、やりがいを感じながら、経験を積んでいきたいと思っております。

5 会員の声③

介護福祉士会 岩崎 京子 様

介

介護福祉士・・・？何をする人でしょうか？介護をする人？誰の介護をするのでしょうか？

家族・友達？

私たちは人生の大先輩の出来るところは自分で行っていただき、出来ない部分を手伝う？はず、でしたよね。だから、人それぞれのやり方や個人の尊重を大切にしてきた、いろいろな研修を沢山してきた、よね？

それが今はどうなのか？よくよく考えてみよう。コロナのせい。全てコロナのせいなの？コロナだって研修は出来たはず、ピンチをチャンスに出来たはず、なのに、なのに、どうしてなのか？こんなにもバラバラになってしまったのか？何を目指しているのか？どこに行こうとしているのか？見えない！

見えない！多くの会員には見えない。一番大切なコミュニケーション、何故それが届かないのか？

きちんとしているよ！と言っても伝わってなければ何もならない。ですね。そう習ってきたよね。

介護は誰にでも出来ることではないです。その方をしっかり見て、いつもと違えば報告して多職種で話しをして、その方が何をしたいのか、どう生きていきたいのか、一緒に考え一緒に悩み、一緒に笑い、一緒に泣き。古いんでしょうか？今の時代は違うのでしょうか？

私たちが支援しているのは、生きている人です。生身の人間です。息をしています。どうか聞いてください。顔を見てください。

人を支えることは素晴らしい事です。
人を好きになってください。

東京都介護福祉士会の売りは沢山の
研修でした。いろいろな介護職が興味
をもって研修に参加できることでした。
と聞いています。

今年度、沢山の会員が介護福祉士会
を辞めていったと理解しています。
「沢山の勉強できるかと思ったけど違っ
たから辞めるね」数人からそう告げ
られ、何も言えない自分がそこにいま
した。国家資格だよ、実技がある資格
だよ、どうして。。どうして。。
もう届かない。

もっともっと介護の専門性を伝えて
欲しい。

高齢者はいろいろな障害をもっているこ
と、だから障害の理解も進めて欲しい。
介護は高齢者の支援だけではないはず。
子供にも介護は必要、どう対応するの？
どこを見るの？

考えられる介護福祉士をどうか育て
て欲しい。もっといろいろな人たちが
輝かせてほしい。

沢山の輝いている人を紹介して欲し
い。みんなに知らせて欲しい。新しい
風を起こして欲しい。

誰もが忙しい中、本当に大変だと思っ
ているけれど、選ばれた人達でしょう？
どうかもう1度介護の専門性をもっと
もっと知らせて欲しい。



6 お知らせ

施設に入所している高齢者と、遠
隔操作ロボットを使っておしゃべり
しませんか。

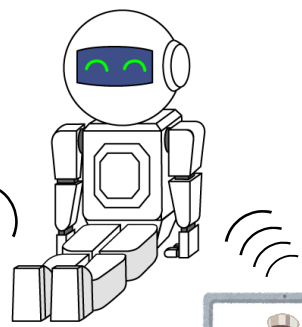
自宅にいても、遠隔地にいても、
パソコンやスマホ、タブレットな
どを使って参加できるボランティア
です。

あなたの“**おうち時間**”や“**隙間時間**”
を施設の高齢者と過ごしませんか！

分身ロボット 活用支援事業

ボランティア 大募集！

遠隔地でも！



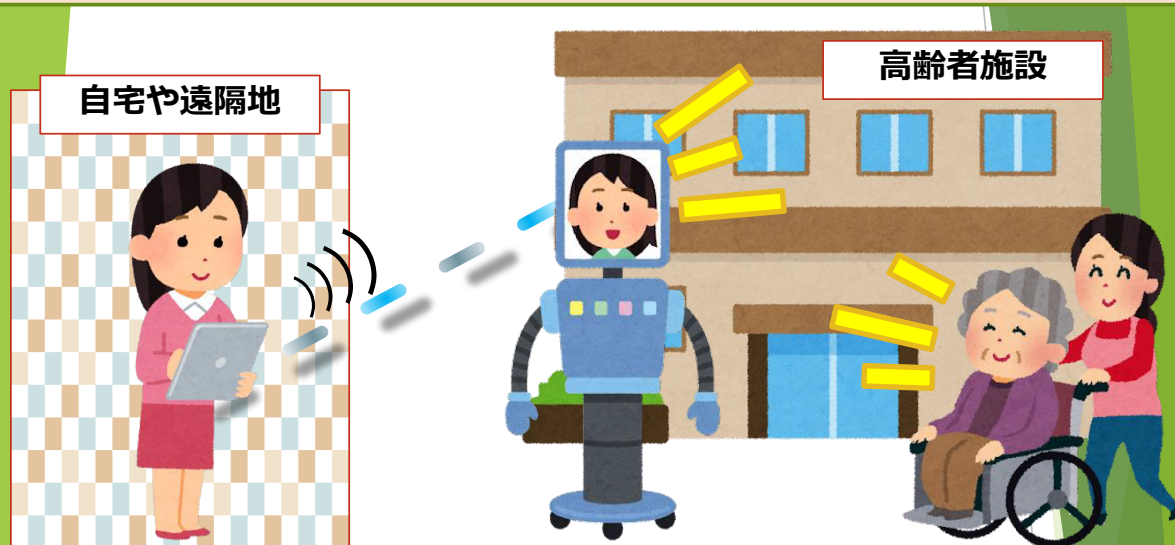
自宅でも！



施設に入所している高齢者と、遠隔操作ロボットを
使っておしゃべりしませんか。
自宅にいても、遠隔地にいても、パソコンやスマホ、
タブレットなどを使って参加できるボランティアです。
あなたの“おうち時間”や“隙間時間”
を施設の高齢者と過ごしませんか！



- ◆ 高齢者が生活する施設では、コロナ禍で家族面会やボランティアの訪問が大幅に制限されてきましたが、施設で生活する高齢者は来訪者とのおしゃべりをとても楽しみにしています。
- ◆ そこで、東京都では施設外から遠隔操作ロボットを使って、施設内の高齢者と定期的に対話するボランティアを募集します。



期間	令和5年7月～令和6年3月の事業期間中で都合がつく日 <ul style="list-style-type: none"> ● 活動時間は、原則として9時～18時の間で施設がスケジュールを組みます。 ● 1回の活動時間は2時間から。
内容	遠隔操作ロボットを操作しながら、施設に入所・入居している方と定期的に一定時間対話をしていただきます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 頻度や時間、話し相手の人数等は施設によって異なります。 ● 会話内容や入所者・入居者の様子について毎回の報告をお願いします。
応募条件	ロボットの操作はオンラインで行いますので、操作用の端末(スマートフォン、PCなど)とWiFi環境が用意できること。 <ul style="list-style-type: none"> ● 各自のスマートフォン、タブレット、PCにダウンロードしていただいたアプリを使ってロボットを操作します。 ● 通信料は自己負担 ※ただし、各施設から1時間当たり1,000円程度(金額は施設によって異なります。)の謝礼をお支払いする予定です。 ● オンラインでのロボット操作になりますので、居住地の制約はありません。どこにお住まいでも応募可能です。
事前研修	実際に活動を始める前にロボットの操作方法、本事業に関する説明や注意事項等について、研修を行いますので必ず参加してください。 ※原則オンライン実施です。 ※研修には謝礼は出ません。
応募方法	下記の申込フォームからお申し込みください。 【応募期限：令和5年6月16日(金)】 <ul style="list-style-type: none"> ● 入力された情報を協力施設に情報提供し、施設から個別に活動日時の調整をさせていただきます。 ● 応募者多数の場合は、施設からの連絡がない場合もありますので、予め御了承ください。 ● 事前の研修については、東京都福祉保健局施設支援課から御連絡させていただきます。

【申込フォーム(右のQRコードを読み込んでください。)]

または 東京都福祉保健局HPトップの「分野別のご案内」を選択し、
 高齢者 > 高齢者施設 > 令和5年度分身ロボット活用支援事業
 のページからお申し込みください。

(担当) 東京都福祉保健局高齢社会対策部施設支援課



令和5年度 地域ブロック学習会のご案内

今年も地域の皆様方のご協力・ご参加を頂き、各区市町村介護福祉士会・ブロック会は活動して参ります。次回の日程は下記のようになっております。ご参加希望時は下記のメールアドレスまたはお電話にて受付を行います。

介護福祉士会・ブロック	実施日時	会場	内容	参加費	担当者名
西東京ブロック	毎月開催 第3金曜日	オンライン 開催	定例会 固定テーマ『介護福祉士が 地域で出来ること』 + 情報交換 ※お気軽にご参加ください	無料	徳山・ 渡邊
太田ブロック	2023年 7月頃 未定	蒲田駅 近辺未定	看取り・認知症 認定調査等未定	無料	並木・ 中川・ 馬來
町田市 介護福祉士会	毎月第3 金曜日 18:30～ 20:30	町田市民 フォーラム 学習室	定例会 「仲間と繋がってしよう」	無料	小林
杉並区 介護福祉士会	4月から 5月に 開催予定	オンライン Zoom	情報交換、 活動テーマ決め	無料	溝呂木・ 望月
調布ブロック	未定	未定	未定		小幡
八王子 ブロック	未定	未定	未定		原田

● 会員情報変更届出等のお問い合わせ：公益社団法人 東京都介護福祉士会 事務センター
東京都新宿区山吹町358-5 TEL：03-6824-9397 FAX：03-5227-8631
メール：tokaigo-seminar@bunken.cp.jp ホームページ：http://www.tokaigo.jp/

編集後記

皆さん如何お過ごしでしょうか？早いもので季節も初夏に変わりました。新しく介護福祉士を取得した仲間も増え、これから東京都介護福祉士会の取組みも活発になると思います。コロナ禍もいまだ落ち着いた状況ではありますが、第5類になりました。今後の動向が気になるころではありますが、現場の負担等が軽減される事を期待したいと思います。今後とも当会の活動に御協力の程 宜しくお願い申し上げます。

おわび：ニュース147号の発行は当初4月初旬を予定しておりましたが、編集の諸事情により発行が遅くなってしまいました。誠に申し訳ありませんでした。

発行：公益社団法人 東京都介護福祉士会

本部：〒135-0003 東京都江東区猿江1丁目3-7 パークノヴァ猿江恩賜公園

TEL：03-5624-2821 FAX：03-5624-9650 E-mail address：info@tokaigo.jp

※掲載原稿、および写真の無断転用を禁じます。

広報委員会 部長：小幡 真也